

「みどり健康フェスタ」内容変更のご案内

健康とくらし9月号にご案内しました健康フェスタの内容を変更しましたので、下記チラシをご覧ください。

感染対策の為、必ず不織布マスクの着用をお願い致します。飲食の持ち込みも禁止とさせていただきますのでご理解をお願い致します。

みどり健康フェスタ

2022年11月6日(日) 9:00~11:30

場所:すこやか診療所駐車場

健康講座

みどり病院・すこやか診療所医師等による健康講座 (各講座 20人限定)

- 9:00 ~ アルコールについて (未定)
- 9:30 ~ 腎不全について (大塚健太郎医師)
- 10:00 ~ 内視鏡検査について (西尾大樹医師)
- 10:30 ~ 糖尿病について (未定)
- 11:00 ~ 高血圧・塩分についてなど (鈴木圭医師)

新病院説明コーナー

医療介護活動紹介コーナー

血糖値測定・骨密度測定・簡易フレイルチェックなど予定

※各コーナー 30分毎 5名 / 計 25名限定

※フレイル検診ではありません

※感染状況・天候等により内容がかわることがあります

みどり病院 健康フェスタ事務局 TEL(058) 241-0681

参加費 無料

SORRY...

感染防止の為、以下の内容変更を行いました。ご了承ください。

- スタンプラリー企画の中止
- バザーの中止
- 農民連野菜販売の中止

『無料カレーの日』を始めてもうすぐ1年

昨年みどり病院と健康友の会で、通院圏内にお住まいの方を対象に『困りごとアンケート』を行いました。藍川地域では、やはりコロナのこともあり、以前より苦しくなったと答えられた方が多数いました。藍川校区は全市的に見ても高齢化率は、2番目です。年金が引き下げられたことも影響したかもしれません。友の会の藍川支部では、運営委員会で皆さんに元気になってもらおうと計画したのが、『無料カレーの日』でした。主婦の方なら1食作らなくていいというところは、一息つけるのではないのでしょうか。昨年の12月から始めて



毎月第3金曜日 11:00~12:00 15:30~16:00

11回行っていきます。毎回ほぼ50食を提供してきました。支部として岐阜フードバンクに加盟して、皆さんに提供できるものを、フードバンクから、また地域の皆さんから様々な物の提供を受けてきました。6月より午後9時の時間にも行っていきます。最近では、男の方の利用もあります。皆さんに、少しは元気を届けられたかなと思っています。先日岐阜県ドバンクの会長さんと話をする機会がありました。お米の事とか、生理用品が必要なら本部にありますよと、言っていたかったです。地域の要望を聞き取れる『ほっとはうす』にしなければと思っています。毎回ボランティアさんは4人から5人で2~3時間で作ります。もちろんコロナ禍では、全てお持ち帰り用です。是非皆さん、元氣の出る『無料カレーの日』をご利用ください。

藍川支部 大塚 和子

登録方法

- ① LINEを開く
- ② ホームを押す
- ③ 友だち追加を押す
- ④ QRコードを押す
- ⑤ 左のQRコードをかざし「追加」を押す
- ⑥ 登録完了!

岐阜健康友の会

公式LINE登録をお願いします

QRコード



9条を守る

戦争と平和を考える絵本の発行

私の第九冊目の絵本が、この夏発行された。『戦場に白衣さらして』愛は愛とて小野ゆきさんの戦争』がそれである。実在した掛斐川町三輪出身の従軍看護婦・小野ゆきさんの壮絶な生涯を描いた。

小野ゆきさんは一九四五(昭和十八)年、看護婦長として三十人の若い看護婦をともなつてフィリピン・マニラ野戦病院に勤務し、翌年ケソン分院に転勤。しかし戦況は厳しさを増し、米軍の爆撃は熾烈を極め、本来の任務を果たせぬまま、密林の中を敗走。食糧は欠乏し、マラリアに侵され死傷者が続出。ゆきさんは、身を投げうって必死の救護につとめるが、

自身も病に侵され回復することもままならず一九四五(昭和二十年)年、敗戦の約一ヶ月前、四十四歳の生涯を終えた。戦後の一九五一(昭和二十六)年、終生を博愛赤十字精神に殉じた小野ゆきさんに国際赤十字社より「フーロレンス・ナイチンゲール紀章」が授与されている。

資料が保存してあるという掛斐川町歴史民俗資料館に何度も足を運んだり、親族の方を訪ねてお話を伺ったり、ゆきさんの眠るお墓を訪ねたりして取材を続けた。

小野ゆきさんの死を知った時、全身を電流が走ったような強い衝撃を受けた。同時に「なんととしても書かねばならない、書き残しておかねばならない」という使命感みたいな感情が突き上げて胸を激しく揺さぶった。私は、自分の魂を小野ゆきさんに重ねて、震えるような想いでこの作品を仕上げた。この絵本発刊に際して資料を提供頂いた掛斐川歴史民俗資料館では、毎年夏の特別企画として「戦争とふるさとのからし」展を開催、平和の尊さに

ついて考える場とされている。この夏は、小野ゆきさんをメインに、私の絵本やその原画も展示された。またコロナ禍の中、七月三十日には、同資料館で語り部・火風水(ひふみ)さんによる絵本の読み聞かせ、さらに九月十八日には、岐阜市の長良川防災健康ステーションセンターで「戦争と平和を考える歌と語りの集い」が持たれ、シンガーソングライターのイリキミ・キョウコさんによる平和の歌、火風水(ひふみ)さんによる絵本が朗読され、多くの方々聴いてもらった。

一九四五(昭和二十年)年八月十五日、日本はポツダム宣言を受諾し無条件降伏をして、長く苦しかった戦争は終結した。アジア太平洋戦争の死者はおよそ三百万人と言われている。その中で食糧や武器の補給を絶たれて半数以上の人々が衰弱による病死や飢餓だったという事実を決して忘れてはなるまい。今日の平和や日本国憲法は、これらの人々の尊い犠牲の上にあるのだから。

戦争が風化し、戦争体験を語る事が困難になりつつある中、戦争のあった時代を振り返り、次の世代に「平和のバトン」をつないでいくことは、我々大人の責任であると考えます。戦後生まれの戦争を知らない世代に生まれ育った私だが、児童文学作家として、また新たな地平を切り拓く作品を書きたいと決意を固めている。

児童文学作家 堀野 慎吉



◆児童文学作家 堀野 慎吉◆
★絵本の問い合わせ先
080・1608・2302
(堀野まで)